

## 令和4年度 村長と語り合うタウンミーティング（中丸地区）実施報告書

### 1, 開催概要

日時：第1回 令和4年10月30日（日）14：00～16：00

第2回 令和4年11月13日（日）14：00～16：00

会場：中丸コミュニティセンター会議室

参加者：第1回 8名（2名欠席），第2回 9名（1名欠席）

ファシリテーター：伊藤 史紀氏（株式会社 Co-Lab）

### 2, 第1回議事概要（◇=参加者発言，◆=村長発言）

#### 村長から話題提供

#### 村長からの話を受けて、思ったこと・感じたこと

◇原子力問題は何が危険で何が安全かということをしっかり押さえていくべき。

◇原子力施設がなくなったらどうなるのか。原子力関係で働いているが、具体的な原子力関連の人材育成について知りたい。

◇原子力施設があるのは分かるが、あまり原子力施設については知らない。どういう施設かをPRしてはどうか。

◇原子力は大切だと思っている。原子力は東日本大震災で怖いイメージになってしまった。何が怖いものなのか明らかにする方がよいと思う。

◇お年寄りや子ども世代の政策はあるが、働いている世代に対する政策はどのように考えているのか知りたい。

◇住宅団地の高齢化が進んでいると思う。市街地の活性化も大切だが、南台・緑ヶ丘の活性化も表に出る形でやってはどうか。

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと

◇防災無線が有線にしないと聞こえない。雑音が多い。非常に危険な場合はJアラートのような形がよい。

◆今の防災無線放送は、本当に危険なときの放送と、イベント等のお知らせが混ざっている。高齢者はテレビ、若年層はLINE等ミックスしてもよいかと思う。

◇地震や台風は大体分かるが、原子力災害はなかなか分からない。一目でこの後どうすればよいかが分かるマニュアル等があるとよい。

◆その通りである。何が起きていて、どう行動してもらいたいかということ、しっかり伝えなければならない。

◇東海第二原子力発電所の避難のシミュレーションは、どうなっているか。

◆近い人はすぐに避難する必要があるが、離れている人も屋内退避が安全だと伝えても、避難して道路が渋滞してしまうだろう。皆さんに恐怖心を植え付けるのではなく、被ばくを抑える具体的な方法やどう行動するかを、しっかり伝えていく必要がある。

◇たまたま東海村に引っ越してきた。(他の参加者の方々が)なぜ東海に家を建てたのか聞きたい。

◇住んだ理由は「便利な田舎」だから。買い物も便利・観光地も近いが、車が不可欠。

◇自治会の高齢化で、やめた取組みもある。自治会長等になるとやることも多くやりきれない。ボランティアも新しく入らない。誰でもできるかということそうでもない。仕事をしている人は70歳過ぎても仕事をしている。

◆東海村は自治会制度をつくったが、バトンタッチがうまくできない。自治会の活動を見直す時期にきている。まちづくりのようなところはボランティアでなく、NPOのような形が必要だと思っている。行政の役割と、そうでないところをきちんと整理していかなければならない。

### 3、第2回議事概要（◇＝参加者発言、◆＝村長発言）

#### **村長に質問したいこと、対話したいこと**（一部グループワーク）

◇安心して老後を過ごすため、公共交通が、より便利になるといい。

◇免許がなくなると、移動ができなくなる、どう避難や生活をしていくのか。

◆地域の公共交通は、村は路線バスとデマンドタクシーで担っている。コミュニティバスの話があるが、停留所と定時運行で、乗りたいときに乗れない。デマンドタクシーだと、都合に合わせられる。新しい交通では、自動運転の実験をしている自治体もあり、村での導入可能性はある。どう改善するかは議論しており、意見を踏まえ検討していく。

◇高齢者世帯、独居世帯の避難の対応は、スムーズにできるか疑問だ。

◇高齢者世帯や空き家が増えている中で、原発事故が起きたときにどこに頼れる人がいるのか、相談する人がいるのか。自治会が頼れる存在になるとよい。

◆避難時に、高齢者や独居世帯、要支援者は一番ケアしないといけない。原子力災害では、住民にリスクを負わせることができない。どういう形でリスクを抑えて避難をするかは考える必要がある。自力で逃げられる方は、避難計画を理解してもらい、訓練して体に染みつけて、すぐに行動できるようにしてもらいたい。

◇免許がなくなり、単身高齢者の医療、食事、住居が心配だ。老後を考えると、不便、不安だと思う。どうやって、高齢者が買い物や病院に行くのか、困っている人や広い世代から意見を聞きたい。

◆総合相談支援課で、分野を問わず相談を受ける体制となり、社協に繋ぐこともできる。用意できるメニューが全てあるわけではないが、ニーズがあればスーパーの移動販売も考えられるだろう。

◇原子力について、調べたり、勉強したりした。今後どうなっていくかを考えると、避難する場合、周辺自治体は、情報が入ると、屋内退避と言われていても、避難するだろう。道路が詰まってしまうと思う。放射線について、普段興味をもって調べたり、勉強したりしているか聞きたい。

◇子どもたちが線量計を持って調べても、その数字の意味が分からない。モニタリングポストなどに表示されているが、その数字の意味が分からない人がほとんどだ。学ぶ機会があれば、自分で動けるようになるかもしれない。

◆子どもたちは、出前授業など学ぶ機会が多くあるが、一般の人は少ない。東海村は原子力施設や燃料製造会社があり、東海村の人には基本的な知識を教えたい。住民から「知りたい」と声を出してもらおうと村もやりやすい。慎重にならざるを得ないが、機会をつくっていききたい。

◇避難するときに分かりやすくなっていればよいと思う。学びたい人が学べる場所、機会があるとよい。

◇プッシュ型の広報を考えてもらいたい。村のHPには様々な情報があるが、村からのお知らせを

メールで配信するサービスを考えてほしい。

◆LINEで配信するなど、少しずつプッシュ型にしている。世代別に工夫が必要だと思う。

◆2回目では休憩時間でも話し合いができていた。2回やると話し合いができるようになる。3回できればもっとよいが日程が難しい。これからも、こういう取り組みを行っていく、周りの人で案内が届いた人がいたら、ぜひ背中を押してほしい。

#### 4、アンケート結果（抜粋）

① タウンミーティングに参加して、満足度はいかがでしたか。

5（満足）	4（やや満足）	3（ふつう）	2（やや不満）	1（不満）
4名	3名	2名	0名	0名

（自由記述欄）

- ・村長さんも直接お話しただいて、東海村の運営が大変身近に感じられました
- ・今回のテーマについて「まちづくりと原子力」に戸惑ったが、全体的なまちづくりに関しても話し合えたので良かった。
- ・村民の方々お一人お一人の考え・意見が聞けてよかったです。

② タウンミーティングに参加した前後で、あなたの行政や地域への関心、参加意欲は変化がありましたか。

5（高くなった）	4（やや高くなった）	3（変わらない）	2（やや低くなった）	1（低くなった）
4名	4名	1名	0名	0名

（自由記述欄）

- ・村の役割や自分の役割について、考えるきっかけになりました。
- ・自分からもっと積極的に住民として地域のことを考えていこうと反省しました。